

目次

序

はしがき

例言

第一編 自然編

第一章 総説

第一節 広がり(三) 形状(三) 面積(三) 適性地(三)

第二節 位 置

一 境位(六) 二 地理的位置(七) 三 気候や生物からみた位置(九)

第三節 地域の特徴

一 山ノ内盆地と須賀川盆地(一〇) 二 上信越高原国立公園(二) 志賀高原(二) 三 温泉資源と集落(二)

第二章 地 形

第一節 地形概説

一 地形的位置(二五) 二 切峰面図(二六) 起伏量図からみた山ノ内の地形(二六) 三 地形区分(二七)

第二節 山岳地域

一 岩菅山地(一〇) 二 赤石山地(三) 三 志賀山地(三) 四 三沢山地(四) 五 高社山地(四)

第三節 平 地

一 山ノ内盆地(五) 二 須賀川盆地(五)

第四節 河 流

一 雑魚川(三九)	魚野川(三九)	二 夜間瀬川(四〇)	三 樽川(四一)	三七
<b>第三章 地質</b>				三七

第一節 地質概説

一 日本列島が二つにちぎられた時代(三七) 二 志賀高原の土台(三六) 三 眠りからさめた火山活動(四〇)

第二節 志賀高原地域

一 範圍(四〇) 二 土台をつくる岩石(四一) 三 玢岩(四二) 四 青みかげの石英閃緑岩(四三) 五 魚のうろこの化石(四三)  
 六 土台の上に第一声(四三) 七 東館山・西館山・焼額山・竜王山・臂出山・鉢山の火山(四四) 八 美をつくり出す陥没  
 (四五) 九 青々と水をたたえた旧志賀湖(四六) 一〇 驚くべき水の力(四六) 一一 湖の中から姿をあらわした志賀山  
 (四七) 一二 ヘルメット状の笠が岳(四八) 一三 無線の横手山(四八) 一四 三沢山(四九)

第三節 志賀高原周辺の火山

一 白煙をあげる白根山(四九) 二 高標山(五〇)

第四節 高社山地域

一 虚空蔵山(五一) 二 滝の沢山(五一) 三 高社山(五一) 四 飯盛山(五二) 五 三ツ子山(五二) 六 池の平台地(五三) 七 箱  
 山(五三)

第五節 地史

**第四章 土壌**

第一節 概説

一 まえがき(五七) 二 土壌の生成過程(五八) 三 土壌の組成(六〇) 四 土壌の肥料成分と吸収作用(六〇) 五 土壌調査  
 について(六一)

第二節 土壌分布の概況

一 土地条件(六一) 二 畑の土壌(六二) 三 水田の土壌(六九)

第三節 土壤改良の方向	七四
一 畑土壤について(七四)	
二 水田土壤について(七五)	
第五章 陸水	八九
第一節 概説	八九
第二節 湖沼	九一
一 志賀高原湖沼の概観(九一)	
二 湖沼の形態とその環境(九二)	
三 湖沼の水質(九三)	
四 湖沼の要約(九四)	
第三節 河川	一二二
一 河川の概況(一二三)	
二 横湯川・角間川水系(一二四)	
三 夜間瀬川水系(一二五)	
四 樽川水系(一二六)	
五 雑魚川水系(一二七)	
六 河川の要約(一二八)	
第四節 温泉	一四三
一 概況(一四三)	
二 温泉の湧出状況(一四四)	
三 温泉の性質と成分(一四五)	
四 温泉地質(一五二)	
第六章 気候	一六三
第一節 気候の概観	一六三
第二節 気候の諸要素	一六四
一 気温(一六四)	
二 降水量(一六五)	
三 風(一六六)	
四 霧(一六七)	
五 霜(一六八)	
六 雪(一六九)	
第三節 志賀高原の気象	一七二
一 夏の気温(一七二)	
二 冬の気温(一七三)	
三 積雪(一七四)	
四 風(一七五)	
第四節 気候と生活	一七六
第七章 植物	一八〇
第一節 志賀高原の蘚苔類	一八〇

一 志賀産の代表的コケ類(一八) 二 コケ類の生態(一八) 三 分布(一八) 四 志賀高原のコケ類目録(一九)

第二節 キノコ類……………一九一

一 概説(一九) 二 種類(一九) 三 町内産キノコの代表種(一九) 四 キノコの俗名(一九)

第三節 志賀高原の高等植物……………一九九

一 植物の概要(一九) 二 植物の種類(二〇) 三 分布(二二) 四 志賀高原で注目すべき植物(三六) 五 志賀高原の植物の保護(四二) 六 志賀高原の山菜(四二)

第四節 平坦部の植物……………二四二

一 植物社会の概要(四二) 二 植物の生態(四三) 三 巨樹巨木(四五) 四 平坦部の植物目録(五五) 五 高社山の植物(六二)

第八章 動物……………二六六

第一節 直翅目……………二六六

一 直翅目の概要(二六) 二 普通に見られる虫(二六) 三 直翅目の種類(二七)

第二節 蜻蛉……………二七三

一 はじめに(二七) 二 蜻蛉の種類(二七) 三 分布(二七) 四 主な亜高山種(二七)

第三節 水生昆虫……………二七九

一 河川にすむ水生昆虫(三五) 二 巢を背負って移動するトビケラ(六四) 三 河川の汚濁と水生昆虫(六五) 四 沼の水生昆虫(六六)

第四節 蝶……………二八七

一 はじめに(二七) 二 蝶類目録(二七) 三 分布(二七) 四 蝶(二九)

五 七種の概要(二九)

第五節 蛾……………二九四

一 蛾の概要(二四四) 二 蛾の生態—食草(二五五) 三 蛾の防除及び利用(三二〇) 四 蛾の種類(三三四) 三二二

一 美化清掃するシデムシ(三三三) 二 花をおとずれるカミキリ(三四四) 三 高原の夏の夜をかざるゲンジボタル(三五五) 六二五  
四 道案内をするハンミョウ(三三六) 五 カタツムリを食うマイマイカブリ(三七七) 六 灯火に飛来するクワガタムシ

(三八八) 七 若葉を好むハムシ(三三九) 八 甲虫目録(三三九) 五〇五

第七節 膜翅目(蜂)……………三三三

一 概説(三三三) 二 蜂の種類とその特徴(三三三) 三 終りに(三三六) 四〇一

第八節 地獄谷の温泉動物……………三二八

一 温泉生物について(三三六) 二 生態と形態(三三九) 三 おわりに(三三九)

第九節 爬虫類 両棲類 魚類……………三三四

一 爬虫類(三四四) 二 両棲類(三四五) 三 魚類(三四七) 四〇九

第十節 志賀高原付近の鳥類……………三三九

一 野鳥の生態(三四〇) 二 保護の手をまつ野鳥(三四六) 三 野鳥の種類(三四六) 四一四

第十一節 哺乳動物……………三五一

一 ニホンザル(三五二) 二 その他の哺乳動物(三五〇) 四一六

## 第二編 歴史編

第一章 山ノ内の生いたち……………三六七

第一節 山ノ内のあけぼの……………三六七

一 狩猟から農耕へ(三六七)

第二節 古墳は語る……………三八八

## 第二章 古代中世の社会

一 夜間瀬古墳群(三〇) 二 古墳時代のくらし(三三)

## 第一節 駒のいななき

一 御牧の開けるまで(三五) 一 信濃の御牧(三七) 三 中野・金倉井・笠原南北条御牧(三〇) 四 横田河原の合戦(四二)

## 第二節 鎌倉をめざして

一 幕府の御家人(四四) 二 関東への道(四七) 三 夜交氏の館(四八) 四 高井地方諸氏の動き(四二)

## 第三節 両党にわかれて

一 南北両朝にくみして(四六) 二 高梨氏の進出(四八) 三 須毛の館(四二)

## 第四節 精神の糧をもとめて

一 弥勒と阿弥陀(四四) 二 禅宗の僧たち(四七) 三 修験者の動き(四〇) 四 諏訪社をもつ村々(四三)

## 第五節 混乱より秩序へ

一 大塔合戦のころ(四七) 二 山ノ内の反乱(四四) 三 上杉・武田両氏の争いに(四九) 四 湧きかえる喜び(四六)

五 検地と移封(四六)

## 第三章 近世の社会

## 第一節 村の仕組み

一 天領と松代領の成立(四七) 二 村のなりたちと検地(四六) 三 年貢制度の変遷(四七)

## 第二節 農村のすがた

一 野良仕事と山稼ぎ(四五) 二 飢饉(五四) 三 騒動と一揆(五〇)

## 第三節 道と往来

一 草津道(四五) 二 牛の背に乗せて(六三)

## 第四節 温泉のさと

一湧き出る湯(六三三) 二湯治場の賑わい(六四七) 三湯治場の情緒(六六二)

第五節 山と水.....六六七

一江戸時代の林野(六七七) 二山論(六七七) 三水論(六九五) 四佐久間象山と杵野山(七二〇)

第六節 地租と官林.....七一一

一維新変革と行政組織の改変(七七七) 二地租改正(七三三) 三官林民有引戻し運動(七五九)

第七節 ふるさとの文化.....七五三

一小林一茶と山ノ内周辺(七三三) 二郷土の文化財(七三〇)

第四章 山ノ内の民俗.....七八七

第一節 絵 説.....七八七

第二節 信 仰.....七八八

一祭事(七六八) 二講(七五二) 三葬制(七九〇)

第三節 生 活.....八〇四

一年中行事(八〇四) 二居住習俗(八二六) 三食制(八二四) 四衣生活(八四三) 五産育(八四六) 六婚姻(八五三)

第四節 庶民文化.....八六〇

一民謡(八六〇) 二童謡(八六四) 三方言(八七四) 四あいさつのことば(八八五) 五子どもの頃の遊び(八九五) 六伝説(八九〇)

### 第三編 社会編

第一章 政治と行政.....九〇三

第一節 明治前期.....九〇三

一維新の変革と制度の変り(九〇三)

第二節 明治後期.....九〇八

一 民主政治のはじまり(九〇八)

第三節 大正期……………九一一

第四節 昭和初期……………九一三

第五節 戦時体制期……………九一四

一 勝つまでは(九二四) 二 移民の送り出し(九二八) 三 兵事(九三三)

第六節 戦後の変革期……………九三三

一 占領下の苦しみ(九三三) 二 地方自治制度の新設(九三四) 三 町村合併(九三七) 四 警察の移りゆき(九四〇) 五 消防制

度の移りゆき(九四〇) 六 保健衛生(九五三)

第七節 財 政……………九六五

一 財政事情(九五五)

第八節 災 害……………九七九

一 山ノ内町風水害状況表(九五九) 二 夜間瀬川の砂防事業(九六二) 三 砂防工事概要(九六七)

第二章 人口と集落……………九九〇

第一節 人 口……………九九〇

一 人口構成(九五〇) 二 人口動態(九五九)

第二節 集 落……………一〇〇六

一 集落の分布と発達(一〇〇六) 二 集落の変遷(一〇一四) 三 社会構造(一〇二〇)

第三章 産 業……………一〇二一

第一節 農業のあゆみ……………一〇二一

一 概観(一〇二二) 二 米作(一〇四八) 三 果樹(一〇六六) 四 ホップ(一〇九〇) 五 タバコ(一一〇一) 六 養蚕(一一〇六) 七 トマト……………一〇二一

(一一二四) 八 麦作(一一二五) 九 菌茸類(一一二七)

第二節 畜産 水産……………	一一三
一 長野県畜産の歴史(一一三) 一馬(一二五) 三牛(一二六) 四綿羊(一二九) 五山羊(一二〇) 六豚(一二三) 七鶏(一二三) 八兔(一二三) 九山ノ内町の畜産(一二七)	
一 国際的になつた養殖技術(一二四) 二山ノ内町の養魚(一二四)	
第三節 林 業……………	一一四八
一 概観(一二八) 二各地区篇(一二六) 三林産物(二八〇) 四杉と苗木(二八五)	
第四節 工鉱業のあゆみ……………	一一九一
一 明治〜大正期の工業(二九一) 二戦後の工業(二九六) 三ふるわなない鉱業(二九六) 四発電事業と農業水利権(三〇一)	
第五節 商業のあゆみ……………	一二〇四
一 明治〜大正期の商業のあらまし(二〇四) 二山ノ内町の商業の現状分析(二〇七) 三商業の将来のビジョン決定の前提(三〇〇) 四山ノ内町の商業の将来のビジョン(三三三) 五金融機関の創設(三三五)	
第六節 交通・通信の発達……………	一二一八
一 山ノ内をめぐる交通路(二二〇) 二前橋街道と商品流通(二二〇) 三豊野駅よりの温泉客誘致(二二七) 四長野電鉄の開通(二三三) 五主要地方道・中野長野原線の全通(二三三) 六通信業務開設までのあらまし(二三三) 七有線放送電話(二三六) 八交通の現状と問題点(二三六)	
第四章 教育と文化……………	一二四三
第一節 教育の普及……………	一二四三
一 学制以前の教育(二四二) 二学校教育の発展(二四九) 三社会教育団体(二六〇)	
第二節 宗 教……………	一二九七
一 明治維新前の宗教(二七七) 二明治維新と宗教(二九七) 三神道国教化確立と宗教界(二九九) 四宗教と社会事業(三〇〇) 五戦時統制下の宗教(三〇〇) 六戦後の宗教界(三〇一)	

